



しが旅のススメ



尼子土壘公園の
サイトはこちら
から



その後は、長男詮久が尼子郷を拠点としたため、「尼子」と称するようになりました。

尼子氏は、室町時代から戦国時代にかけて山陰地方を支配した武家の一族で、出雲（島根県）を中心とする戦国大名として知られています。尼子氏は、宇多源氏佐々木氏の流れをくむ京極氏の分家で、室町時代に京極道誉の孫の京極高久が近江国犬上郡尼子郷（現在の滋賀県甲良町）を所領としたことが始まりで、この尼子郷を拠点としたため、「尼子」と称するようになりました。

■ 尼子氏発祥の地（甲良町）

顕彰進め、史跡は公園に



① 尼子氏発祥の地 ② 土壘とお堀が発見された「いずれも甲良町尼子の尼子土壘公園」で



子郷を相伝し、次男の持久は出雲に下向して出雲尼子氏となりました。出雲に転じた尼子氏は尼子経久の代に京極氏の支配から独立し、中国地方で毛利氏や大内氏と覇権を争う大大名へと発展しました。

しかし、本来嫡流である近江尼子氏のその後の活動はよく分かっていません。応仁の乱頃から戦国時代にかけて、近江が戦乱の地となったために、尼子氏に関する史料が焼失してしま

った可能性が考えられます。少ない史料からは、近江の犬上郡尼子郷は、六角氏と浅井氏の勢力争いの境界に位置し、近江尼子氏は、六角氏につかえるようになりながらも、浅井氏とも良好な関係を維持していたようです。謎が多く、確かな系図も残されていません。

このように、1988年に滋賀県教育委員会がおこなった文化財調査で土壘とお堀が発見されたのをきっかけに、尼子氏顕彰会は「尼子氏発祥の地」として、次世代に伝える事業として、取り組みを行いました。また、尼子集落、むらづくり



これまでの「しが旅のススメ」はこちらから

【アクセス情報】「尼子氏発祥の地」尼子土壘公園（甲良町尼子）へは近江鉄道尼子駅から徒歩約10分。車の場合は名神高速道路湖東三山スマートインターチェンジ（IC）から約10分。

勝